



**Hewlett Packard**  
Enterprise

# Red Hat Enterprise Linux 8.3

Supplement for Service Pack for ProLiant 2020.09.0 Gen10  
リリースノート

2020年12月

法律および通知情報

© Copyright 2020 Hewlett Packard Enterprise Development LP

ドキュメント履歴:

リリース日	説明
2020年12月	最終版

## 目次

---

概要 .....	4
アップデートの推奨事項 .....	4
整合性 .....	4
変更の概要 .....	4
重要な注意 .....	4
リリースの概要 .....	5
前提条件 .....	5
Linux上でのSUMの実行 .....	5
展開の手順 .....	6
コンポーネントリリースノート .....	7

## 概要

---

Service Pack for ProLiant (SPP) サプリメントは、展開ツールとしてSUMを含むソフトウェアおよび/またはファームウェアコンポーネントを含めたバンドルです。SPPのコンポーネントと連動していない新しいオペレーティングシステムのアップデートまたはSPPに含まれていない機能をサポートすることが可能です。サプリメントに含まれるソフトウェアおよびファームウェアは、通常のSPPのリリースサイクル外で必要とされる機能のサポートを提供します。サプリメントは、必要なときにHPEがドライバーのサポートを提供することができるため、カスタマーは完全なSPPが利用可能になるのを待つ必要がなくなります。

各SPPサプリメントのバージョン番号は、対応するSPPのバージョンと一致しています。サプリメントのリリースノートが提供され、バンドル内のコンポーネントに関する情報が記載されます。サプリメントのコンテンツがLinuxコンポーネントを含む場合、コンポーネントはLinux Software Delivery Repository (SDR)でも利用可能です。

いったんリリースされたら、SPPサプリメントのコンテンツの機能が次の利用可能なSPPに含まれます。

2020.03.0以降、追加のGen10製品のサプリメントSPPリリースがあります。

SPPに関連付けられたホットフィックスは、SPPサプリメントでも動作します。ホットフィックスが、サプリメントでサポートされているオペレーティングシステムをサポートしているかどうかを確認してください。SPPホットフィックスの詳細については、[SPP Information Libraryページ](#)にあるSPPのリリースノートを参照してください。

これは、Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 8.3 Supplement for Gen10 Service Pack for ProLiant 2020.09.0です。

RHEL 8.3でサポートされるサーバーについて詳しくは、以下のOSサポートサイト <https://www.hpe.com/servers/ossupport> を参照してください。

製品名	コメント
RHEL8.3 Supplement for Gen10 SPP バージョン2020.09.0	ソフトウェアコンポーネントを含むバンドル ファイル名: gen10supssp-2020.09.rhel8.3.en.tar.gz

### アップデートの推奨事項

オプション - ご使用のシステムが記載された修正に影響する場合、またはこのバージョンで提供される拡張機能を使用する場合、このバージョンにアップデートする必要があります。

### 整合性

Gen10 Service Pack for ProLiant 2020.09.0

## 変更の概要

---

### 重要な注意

この文章全体で使用されているサブプリメント、Service Pack for ProLiantまたはSPPの用語は、明示的に述べない限り、概要セクションの表の配布物のすべてを示しています。

▲ 任意のコンポーネントをシステムにインストールする前に、インストール手順で問題が発生した場合にはシステムの最新のバックアップが利用できることを確認してください。

## リリースの概要

このRed Hat Enterprise Linux (RHEL) 8.3 Supplement for Service Pack for ProLiant Gen10リリースの概要は以下のとおりです。

Red Hat Enterprise Linux 8.3のサポートを追加しました

このサブプリメントは、Gen10only SPP 2020.09.0に対応しています。このSPP 2020.09.0 Gen10Onlyに付属するドライバーか、RHEL 8.3ディストリビューションで提供されるドライバーのいずれかを使用できます。ただし、最初のリリース(SPP 2020.09.0 Gen10Only)に付属するドライバーには、このサブプリメントで利用できるHPEの追加機能の一部が含まれていないことがあります。これらの機能は将来のSPPリリースで追加されます。

このService Pack for ProLiant (SPP)で提供されるすべてのコンポーネントは、一緒にテストされ、Service Pack for ProLiant内の他のコンポーネントの依存関係を満たしています。

以下の製品に同梱されているソフトウェアとファームウェアコンポーネントを使用しているシステムは、簡単にこのサブプリメントのコンポーネントに移行できるようになります。

製品	バージョン
Service Pack for ProLiant	2020.09.0
	2020.03.2

注記: systemdメッセージコンソールに"thawing (解凍中)"状態と表示される場合があります。これは、特にサービスの再起動またはリロードの後、systemdでデフォルト値が正しく設定されないためです。

## 前提条件

### Linux上でのSUMの実行

▲ インストール処理に失敗したときのために、ターゲットシステムにソフトウェアアップデートをインストールする前に、ターゲットシステムの最新のバックアップがとられていることを確認してください。

LinuxオペレーティングシステムのリモートターゲットシステムでSUMを正常に展開するには、以下が利用可能であることが必要です。

- libcrypt.so
- libcrypt.so.1
- /usr/lib/libqldsmdm.so

- /usr/lib64/libqldsdm-x86\_64.so
- /lib/cim/libqldsdm.so
- /usr/lib/libemsdm.so
- /usr/lib64/libemsdm.so
- /lib/cim/libemsdm.so
- /usr/lib/bfahbaapi.so
- /usr/lib64/bfahbaapi.so
- /lib/cim/bfahbaapi.so
- linux-vdso.so.1
- /lib64/libcrypt.so.1
- /lib64/libpthread.so.0
- /lib64/libz.so.1
- /lib64/libdl.so.2
- /lib64/librt.so.1
- /usr/lib64/libstdc++.so.6
- /lib64/libm.so.6
- /lib64/libgcc\_s.so.1
- /lib64/libc.so.6
- /lib64/ld-linux-x86-64.so.2

## 展開の手順

---

このサブリメントは、オペレーティングシステムのインストール後に使用するよう設計されています。これにより、ドライバーのアップデートと、HPEユーティリティ(ヘルスやiLOドライバーなど)およびエージェント(サーバー、NIC、およびストレージ)のインストールが可能になります。

サポートされているLinuxオペレーティングシステム上でSPPサブリメントおよびそれに対応するSPPを使用することにより、標準のLinuxインストールツール(YUM/Zypper)またはHPE管理ツール(SUM/OneView)のいずれかを選択して以下のことを実行できます。

- サブリメントおよびSPPで提供されているソフトウェアおよびファームウェアを使用します。
- SPPで提供されているファームウェアを使用し、Software Delivery Repository <https://downloads.linux.hpe.com/SDR>からソフトウェアを入手します。
- SPPで提供されるファームウェアおよびソフトウェアユーティリティと、オペレーティングシステムのディストリビューションから入手可能なドライバーを使用します。

コンポーネントは所定の展開に応じて、SUMカスタムベースラインを使用して単一のISOに組み合わせたり、別のパッケージとして適用したりできます。

注記：Gen10 iLO 5 LinuxおよびiLO 5ノードのみ-iLOリポジトリを管理するには、[iLOリポジトリオプション]タブを選択します。(SUMをGUIモードで実行する場合)。

選択したコンポーネントをiLOレポジトリにアップロードし、インストールセットを作成するには、コンポーネントをインストールセットとしてiLOレポジトリに保存を選択します。SUMによって自動的に名前と説明が作成されますが、インストールセットの名前と説明を編集することができます。このインストールセットを使用して、今後、サーバーコンポーネントをロールバックできます。名前と説明は**63文字に制限**されており、使用できる特殊文字は-と\_だけです。

# コンポーネントリリースノート

---

## RHEL8.3 Supplement for Gen10 SPP v2020.09.0のリリースノート

[ドライバー - ストレージコントローラー](#)

[ソフトウェア - Lights-Out マネジメント](#)

[ソフトウェア - システムマネジメント](#)

### ドライバー - ストレージコントローラー

[先頭](#)

HPE ProLiant Gen10 および Gen10 Plus Smart アレイ コントローラー (64 ビット) ドライバー for Red Hat Enterprise Linux 8 (64 ビット)

バージョン: 2.1.6-006 (推奨)

ファイル名: kmod-smartpqi-2.1.6-006.rhel8u2.x86\_64.compsig、kmod-smartpqi-2.1.6-006.rhel8u2.x86\_64.rpm、kmod-smartpqi-2.1.6-006.rhel8u3.x86\_64.compsig、kmod-smartpqi-2.1.6-006.rhel8u3.x86\_64.rpm

#### 重要な注意!

-

#### 修正

-

#### 改善点

-

#### サポートされるデバイスおよび機能

サポートされるカーネル:

このバイナリ rpm でサポートされる Red Hat Enterprise Linux 8 (64 ビット) カーネルは、次のとおりです。

- デフォルト - Red Hat Enterprise Linux 8 Update 0 (64 ビット)

---

### ソフトウェア - Lights-Out マネジメント

[先頭](#)

HPE Lights-Out オンライン設定ユーティリティ for Linux (AMD64/EM64T)

バージョン: 5.6.0-0 (オプション)

ファイル名: hponcfg-5.6.0-0.x86\_64.compsig; hponcfg-5.6.0-0.x86\_64.rpm

#### 前提条件

このユーティリティは、以下の最小ファームウェアバージョンを必要とします。

- Integrated Lights-Out 3 ファームウェアバージョン 1.00 以降
- Integrated Lights-Out 4 ファームウェアバージョン 1.00 以降
- Integrated Lights-Out 5 ファームウェアバージョン 1.20 以降

マネジメントインターフェイスドライバーおよびマネジメントエージェントはサーバーに必ずインストールされていなければなりません。

iLO 5 の場合は、上記のパッケージに加え、openssl v1.0.x 以降が必要です。

openssl を手動でコンパイルおよびインストールしたり、意図的に /usr/bin/openssl を再配置している場合は、PATH 環境変数を設定し、正しい意図した openssl に HPONCFG をダイレクトする必要があります。

#### 修正

複数の 64 ビット openssl がインストールされている場合、HPONCFG が openssl ライブラリを検出できないという問題を修正しました。

#### 改善点

製品名を HPE Lights-Out オンライン構成ユーティリティ for Linux (AMD64/EM64T) にアップデートしました。

---

Agentless Management Service (iLO 5) for Red Hat Enterprise Linux 8 Server

バージョン: 2.3.0 (オプション)

ファイル名: amsd-2.3.0-1443.35.rhel8.x86\_64.compsig; amsd-2.3.0-1443.35.rhel8.x86\_64.rpm

### 前提条件

- amsdは、HPE Gen10サーバー上のみでサポートされています。
- amsdは、SNMPサポートを提供しているiLO 5サービスに情報を提供します。

### 要件:

- 最低限必要なiLO 5ファームウェアバージョン = 1.1
- サポートされる最小OSバージョン = Red Hat Enterprise Linux 7.3 Errata 3.10.0.514.6.1

### 修正

以下を修正しました。

- HPE Agentless Management Service (iLO 5)(amsd) for Linuxのahslogサービスは、システムの起動中にsegfaultすることがあります。これが発生している間、ユーザーはsystemctlから"Failed to start Active Health Service Logger"メッセージを見ることができます。詳しくは、カスタマーアドバイザリ[a00099165en\\_us](https://www.hpe.com/enterprise/enterpriseinfo/a00099165en_us)を参照してください。
- RHELでipv6を無効にするようにカーネルパラメーターを設定すると、HPE Agentless Management Service (AMSD)のメモリ使用量がはるかに安定します。
- HPE Agentless Management Service (AMSD)で、テストパラメーターを使用してテストトリップを生成できないことを修正しました。
- iLOの再起動時にサービスを再開できるように、ahslogの安定性に対処しました。iLOの再起動後にサービスがハングアップしなくなります。
- ファイバーオプションでは、リバースモード(SMA)でデータを正しく配信します

### 改善点

このリリースの機能強化は、以下のとおりです。

- 次の新しいネットワークコントローラーのサポート:
  - P10118-B21 (HPE Ethernet 10/25Gb 2ポートSFP28 QL41232HVCU OCP3アダプター)
  - P22702-B21 (HPE Ethernet 10/25Gb 2ポートSFP28 QL41222HVCUアダプター)
  - 874253-B21 (HPE Ethernet 100Gb 1ポート 842QSFP28アダプター)

---

HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) CLI for Linux 64ビット

バージョン: 4.21.7.0 (オプション)

ファイル名: ssacli-4.21-7.0.x86\_64.compsig; ssacli-4.21-7.0.x86\_64.rpm; ssacli-4.21-7.0.x86\_64.txt

### 重要な注意!

HPE SSACLIは従来と同様に、さらに追加の機能、能力、およびサポートされたデバイスを持ち、ご使用のストレージを構成して管理することができます。既存のACUCLISクリプトは、互換性を維持するために適切なバイナリまたは実行可能ファイルを呼び出すような最小限の変更のみを加える必要があります。

### 修正

構成されている場合、ADUレポートは4GiBサイズを超えるSlotxログをキャプチャーしません。

### 改善点

HPE Smartアレイ S100i SR Gen10 Plus SW RAIDのサポートを追加

---

HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA) for Linux 64ビット

バージョン: 4.21.7.0 (オプション)

ファイル名: ssa-4.21-7.0.x86\_64.compsig; ssa-4.21-7.0.x86\_64.rpm; ssa-4.21-7.0.x86\_64.txt



## **重要な注意!**

HPE SSAは既存のHPアレイコンフィギュレーションユーティリティ(ACU)のデザインをアップデートして、それらがオンラインになるのに応じて、様々なSmart Storageイニシアチブのために新機能と機能性を提供します。 HPE Smart Array Advanced Pack 1.0 および2.0の機能は、適切なファームウェア(の使用)によりHPE SSAのベースライン機能の一部となりました。

HPE SSAは従来と同様に、さらに追加の機能、能力、およびサポートされたデバイスを持ち、ご使用のストレージを構成して管理することができます。 既存のACUスクリプトは、互換性を維持するために適切なバイナリまたは実行可能ファイルを呼び出すような最小限の変更のみを加える必要があります。

## **前提条件**

HPE Smart Storage Administrator for Linuxは、サーバーにHPE System Management Homepageソフトウェアがインストールされている必要があります。 サーバーにHPE System Management Homepageソフトウェアがインストールされていない場合、HPE Smart Storage Administrator for Linuxをインストールする前に、HPE.comからダウンロードしてインストールしてください。

**重要なアップデート:**HPE SSA (GUI) for Linuxは、HPE System Management Homepageを必要とせず、実行することができます。 HPE SSAは、Linux用のローカルアプリケーションモードをサポートするようになりました。 HPE System Management Homepageはサポートされていますが、HPE SSA GUIの実行には必要ありません。

起動するには、コマンドプロンプトで以下を入力してください。

```
ssa -local
```

このコマンドは新しいFirefoxブラウザーウィンドウでHPE SSAを開始します。ブラウザーウィンドウを閉じると、HPE SSAは自動的に終了します。これは、ループバックインターフェイスだけに有効であって、外部ネットワーク接続からは見えません。

## **修正**

構成されている場合、ADUレポートは4GiBサイズを超えるSlotxログをキャプチャーしません。

## **改善点**

HPE SmartアレイS100i SR Gen10 Plus SW RAIDのサポートを追加

---

HPE Smart Storage Administrator Diagnostic Utility (HPE SSADU) CLI for Linux 64ビット

バージョン: 4.21.7.0 (オプション)

ファイル名: ssaduccli-4.21-7.0.x86\_64.compsig; ssaduccli-4.21-7.0.x86\_64.rpm; ssaduccli-4.21-7.0.x86\_64.txt

## **重要な注意!**

HPE Smart Storage Administratorの診断機能のこのスタンドアロンバージョンは、CLIからのみ利用できます。 診断レポートのGUIバージョンは、HPE Smart Storage Administrator (HPE SSA)を使用してください。

## **修正**

構成されている場合、ADUレポートは4GiBサイズを超えるSlotxログをキャプチャーしません。

## **改善点**

HPE SmartアレイS100i SR Gen10 Plus SW RAIDのサポートを追加

---